

名古屋港長期構想の骨子（案）

2025年4月25日

第2回 名古屋港長期構想検討委員会

1. 骨子（案）の構成	4
2. 基本理念	6
3. 名古屋港の将来像	8
4. 施策の方向性	10
5. 空間利用の方向性	14
6. 実現に向けて	24
7. 骨子（案）のまとめ	27

名古屋港の将来を考える会（2023年度）

新たな長期構想の検討に向け、ポートアイランドを含めた名古屋港全体の将来像について、関係者と意見交換を行った

長期構想検討委員会(2024年度～2025年度)

概ね20年から30年先の名古屋港の将来像やそれを実現するための施策の方向性について検討し、長期構想の策定に関して助言を行う

長期構想
の位置づけ

名古屋港
の現況

環境変化

ポテンシャル

現長期構想の点検・検証

目指す方向性

- ・長期構想の検討にあたっての基本的な考え方
- ・基本理念の考え方
- ・名古屋港の将来像の考え方
- ・施策の方向性の考え方

名古屋港長期構想（骨子案）

- ・基本理念
- ・名古屋港の将来像
- ・施策の方向性
- ・空間利用の方向性
- ・実現に向けて

名古屋港長期構想（中間案）

名古屋港長期構想（最終案）

第2回
長期構想検討委員会（本日）

1. 骨子（案）の構成

【長期構想の位置づけ】

- ・ 長期構想は、概ね 20 年～ 30 年先を見据えた様々な主体の諸活動の指針
- ・ 概ね 10 年～ 15 年先を目標年次とした港湾計画や個別の具体計画に繋がるもの

【長期構想骨子（案）の構成】

＜項 目＞	＜記載内容＞
基本理念	名古屋港が重視する 基本的な価値観や考え方
名古屋港の将来像	名古屋港が 将来ありたい姿
施策の方向性	名古屋港の 将来像の実現に向けた具体的な施策を導くための方針
空間利用の方向性	施策を展開するエリアや施策の進め方のイメージ
実現に向けて	長期構想の実現に向け、 施策と並行して進める取組

2. 基本理念

- 名古屋港はこれまで、取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応するなど、時代の要請に的確に対応しながら成長し、物流を中心とした経済的価値を創出する場として、中部圏のものづくり産業や人々の生活を支えてきた
- また、物流機能の充実により、産業の集積とその活性化を促しながら港湾エリアを拡大し、さらに都市とのつながりも港湾の機能のひとつとして、名古屋港はあらゆる意味で地域に欠かせない存在へと成長した
- 近年、世界的な脱炭素化の推進、情報通信技術の活用、労働力不足など、本港を取り巻く環境は大きく変化している
- 一方、人々の価値観は、地球規模の環境対策や人権の尊重などの社会的な課題に積極的に取り組み、**経済・社会・環境のバランスが取れた“持続可能な開発”を評価する考え方に変化**している



- 名古屋港が持続的な発展を目指し、先進的なアプローチにより迅速に課題解決に取り組むことは、日本全体が抱える課題解決の糸口となりうる
- 日本の中央に位置し、ものづくり産業を物流で支えてきた名古屋港は、今後、ますます日本の中核的な役割を担うことから、日本の発展をリードするという高い視点を持つ必要がある

基本理念は、本港の将来の方向性や重要性を広く理解してもらうため、分かりやすく端的なフレーズをあわせて示す

【基本理念】

物流で日本をひっぱる価値創造港湾

名古屋港は、**産業や生活を支え、日本の発展を物流でけん引する港として、社会的課題への対応を更なる成長の機会として捉え、経済的価値と社会的価値が両立した新たな価値を創出し、持続的な発展を目指す**

3. 名古屋港の将来像

名古屋港の将来像とその考え方

- 名古屋港の将来像は、本港から価値を得る人々の視点から、将来ありたい姿を示すものとする

【本港から価値を得る人々の視点】

名古屋港を
利用してモノを
運ぶことにより
価値を得る
人々の視点

・世界経済が多極化し、また、地政学リスク等が高まるなか、多様なルートを通じて、**世界の成長するエリアと常に繋がっている**

・中部圏が日本中央回廊の効果を最大化し、日本の成長の核となる圏域を目指すなか、**首都圏・近畿圏の機能を代替・補完できる基幹物流の要衝となっている**

・労働力が減少していくなか、仕事の魅力が高く、若者や女性を始めとする**あらゆる人が働きがいを感じて活躍している**

・災害やサイバー攻撃のリスク、港湾施設の更新需要が高まっているなか、物流を止めることなく、**いつでもどんな時でも、物流サービスを提供している**

・情報通信技術の活用などにより物流全体の変革が進むなか、変化に適応し、**生産性が高く効率的な物流サービスを提供している**

・世界的に脱炭素化が推進されるなか、エネルギーの適正利用により、**脱炭素な物流サービスを提供している**

名古屋港内の
事業・産業活動
から価値を得る
人々の視点

・世界的に脱炭素化が推進されるなか、**ものづくり産業のカーボンニュートラルに貢献している**

・ものづくり産業のイノベーションが進められているなか、**新たな事業が創出しやすい環境が整っている**

・災害等のリスクが高まっているなか、災害が発生しても、**安全に事業・産業活動を行っている**

名古屋港に
親しみ、また、
共生することで
価値を得る
人々の視点

・持続可能な社会の実現が求められるなか、**海が豊かであるなど港湾周辺環境が良好で、周辺の人々や海域・緑地などの自然環境と共生している**

・リニアの開通により交流圏が拡大するなか、水族館やクルーズ船などの港のにぎわいがまちのにぎわいと繋がり、**まちづくりと連携した多彩な魅力を創出している**

・災害等のリスクが高まっているなか、災害が発生しても、**来訪者及び周辺の人々に安心感を与えている**

【名古屋港の将来像】

世界や地域が求める
物流サービスを
提供する港

地域の成長・進化の
基盤となる
存在価値の高い港

環境・地域と共生し、
安心で多彩な
魅力のある港

4. 施策の方向性

施策の方向性の考え方

- 施策の方向性は、将来像の実現に向けた具体的な施策を導くための方針を示すものとする
- 施策の方向性は、ポテンシャルを踏まえてバックキャストिंगで検討する
- ポテンシャルを活用して、日本の発展に貢献する施策や効果的・効率的な施策を推進していく

名古屋港の将来像
(価値が高い名古屋港の姿)

バック
キャストिंग

施策の方向性

ポテンシャル

- 1 日本中央回廊の効果を最大化する拠点
- 2 世界的な産業集積の更なる成長
- 3 先進的な取組が進む立地特性
- 4 様々な関係者の連携
- 5 先進的な取組の高度化
- 6 次世代エネルギー拠点の形成
- 7 ポートアイランドの利活用

ポテンシャル活用の効果

- ・ 日本の中央に位置する本港が、物流の拠点化や次世代産業の振興をすることによって、中部圏が日本中央回廊の効果を最大化させる役割を加速することができる
- ・ 本港の姿勢や優位性によって、幅広い分野へのDXの活用や、競争力強化につながるGXの推進などを通して、効果的・効率的な施策を推進することができる

DX：デジタルトランスフォーメーション
GX：グリーントランスフォーメーション

【名古屋港の将来像】 （価値の高い名古屋港の姿）

【施策の方向性】

世界や地域が求める物流サービスを提供する港

世界経済が多極化し、また、地政学リスク等が高まるなか、多様なルートを通じて、**世界の成長するエリアと常に繋がっている**

中部圏が日本中央回廊の効果を最大化し、日本の成長の核となる圏域を目指すなか、**首都圏・近畿圏の機能を代替・補完できる基幹物流の要衝となっている**

労働力が減少していくなか、仕事の魅力が高く、若者や女性を始めとする**あらゆる人が働きがいを感じて活躍している**

災害やサイバー攻撃のリスク、港湾施設の更新需要が高まっているなか、物流を止めることなく、**いつでもどんな時でも、物流サービスを提供している**

情報通信技術の活用により物流全体の変革が進むなか、変化に適応し、**生産性が高く効率的な物流サービスを提供している**

世界的に脱炭素化が推進されるなか、エネルギーの適正利用により、**脱炭素な物流サービスを提供している**

●世界標準に適合した高性能なコンテナ物流拠点形成する

- ・様々な船社が運航する多方面・多頻度の航路に対応できるよう、連続直線バースで大型船に対応した係留施設、十分な広さの荷捌き地と高性能な荷役機械を有し、世界の貨物輸送に関する情報が共有できる世界標準に適合した高性能な物流拠点を形成する

●多機能なロジスティクスハブ形成する

- ・世界各国への海上輸送に対応するとともに、陸上輸送における中継輸送や共同輸配送に対応した国内外の基幹物流ネットワークの中核となる高度な物流拠点を形成する
- ・自動車専用船、フェリー、R O R O船を活用した複合一貫輸送については、十分な規模の荷捌き地を有し、複数事業者が円滑で効率的に利用できる物流拠点を形成する

●魅力と働きがいのある環境を作り出す

- ・遠隔操作R T G[※]の導入などにより労働環境の快適性、安全性、生産性を高めるD Xを推進するとともに、本港が果している役割や仕事を広く発信し、魅力と働きがいのある環境を作り出す

※ RTG…ラバータイヤ式門型クレーン

●港湾機能を強靱化する

- ・自然災害が発生した際にも貨物輸送を継続できる耐震強化岸壁を整備するとともに、背後地域と一体となった輸送ルートを構築する
- ・自然災害、サイバー攻撃、感染症など、様々なリスクへの対応を想定した計画や体制を整える

●港湾施設を効率的・戦略的に維持管理する

- ・センシング技術やドローン等のI o Tを活用した点検など、最新技術を活用した効率的な維持管理を推進する
- ・施設の計画的な補修や集約・再編等によりインフラストックの適正化を推進する

●シームレスな物流環境を構築する

- ・海陸空の輸送モード間での情報を共有し、貨物の積み替えが自動化・機械化され、港内で円滑な道路・航路体系を確保するとともに、自動運転トラックや自動運航船などの新技術にも対応できるシームレスな物流環境を構築する

●港湾物流の脱炭素化を推進する

- ・荷役機械による貨物の荷捌きや積卸、船舶や車両による輸送のGXにより、港湾物流の脱炭素化を推進する

施策の方向性

【名古屋港の将来像】 （価値の高い名古屋港の姿）

地域の成長・存在価値の
高い港
進化の基盤となる

世界的に脱炭素化が推進されるなか、
ものづくり産業のカーボンニュートラルに貢献している

ものづくり産業のイノベーションが進められているなか、**新たな事業が創出しやすい環境が整っている**

災害等のリスクが高まっているなか、災害が発生しても、**安全に事業・産業活動を行っている**

【施策の方向性】

●次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する

- ・水素・アンモニア等の次世代エネルギーの輸入、生産、貯蔵、配送や、二酸化炭素の回収・輸出を担う大規模な拠点を形成する
- ・既存産業のGXや次世代エネルギー関連産業の立地を促進する

●次世代産業を振興する

- ・地域が進める産業振興策と連携し、港特有のフィールドの活用などにより、ドローン等のロボット産業や循環型社会への移行に資する新たな産業などの次世代の柱となる新たな産業を振興する

●協働防護を推進する

- ・気候変動による影響を考慮した津波、高潮等の自然災害による浸水リスクに対し、官民の多様な関係者が協働で目標等を定め、総合的な防災対策を進める

安心環境で
多彩な魅力と共生する港

持続可能な社会の実現が求められるなか、海が豊かであるなど港湾周辺の環境が良好で、**周辺の人々や海域・緑地などの自然環境と共生している**

リニアの開通により交流圏が拡大するなか、水族館やクルーズ船などの港のにぎわいがまちのにぎわいと繋がり、**まちづくりと連携した多彩な魅力を創出している**

災害等のリスクが高まっているなか、災害が発生しても、**来訪者及び周辺の人々に安心感を与えている**

●良好な港湾環境を創出・保全する

- ・ブルーカーボン生態系の活用となる浅場や干潟の創出・保全、生物共生型港湾構造物の整備、再生エネルギーの活用などを推進する

●“みなと”と“まち”の繋がりを意識した魅力ある港湾空間を形成する

- ・にぎわいの広がりともちづくりとの繋がりを意識し、官民が連携して港の魅力向上を図り、あらゆる人が訪れたい魅力ある港湾空間を形成する

●名古屋港固有の魅力を磨き上げる

- ・港らしさを感じる景観資源、歴史や文化などを活かし、本港固有の魅力を磨き上げる

●地域と連携した防災対策を推進する

- ・地域の関係者が連携して、避難場所の確保、港湾及び地域への被害の最小化や早期復旧・復興に向けた計画・体制づくり等の防災対策を推進する
- ・港の防災対策や発災時の安全確保のために必要な情報発信を推進する

5. 空間利用の方向性

空間利用の方向性の考え方

- 空間利用の方向性は、施策を展開するエリアや施策の進め方のイメージを示すものとする
- 施策の進め方のイメージは、特性により4つに分けた地区ごとに、現状や施策の相互関係を踏まえて整理する

【検討方針】

空間利用の方向性（将来像ごと）

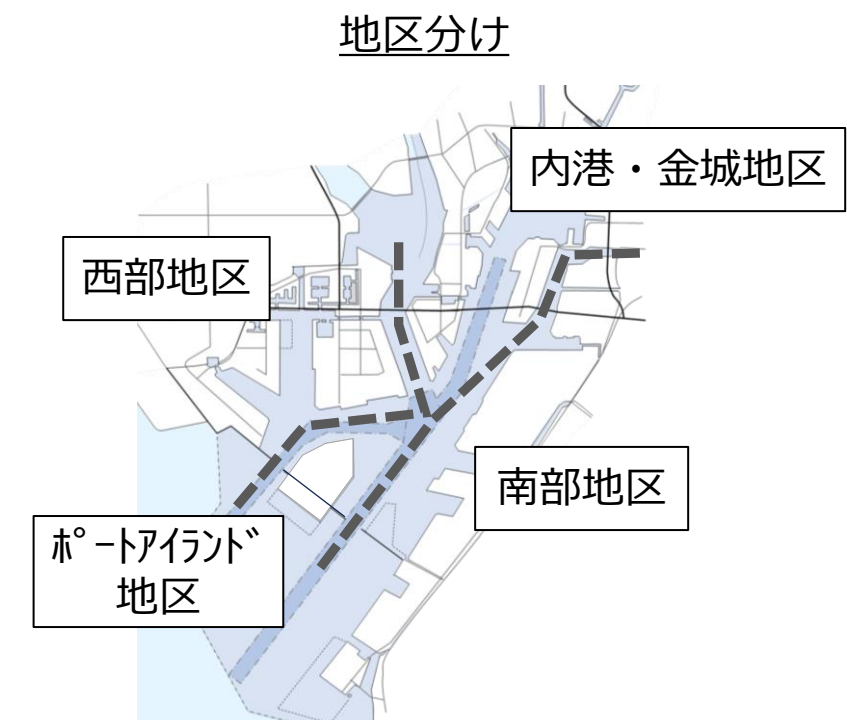
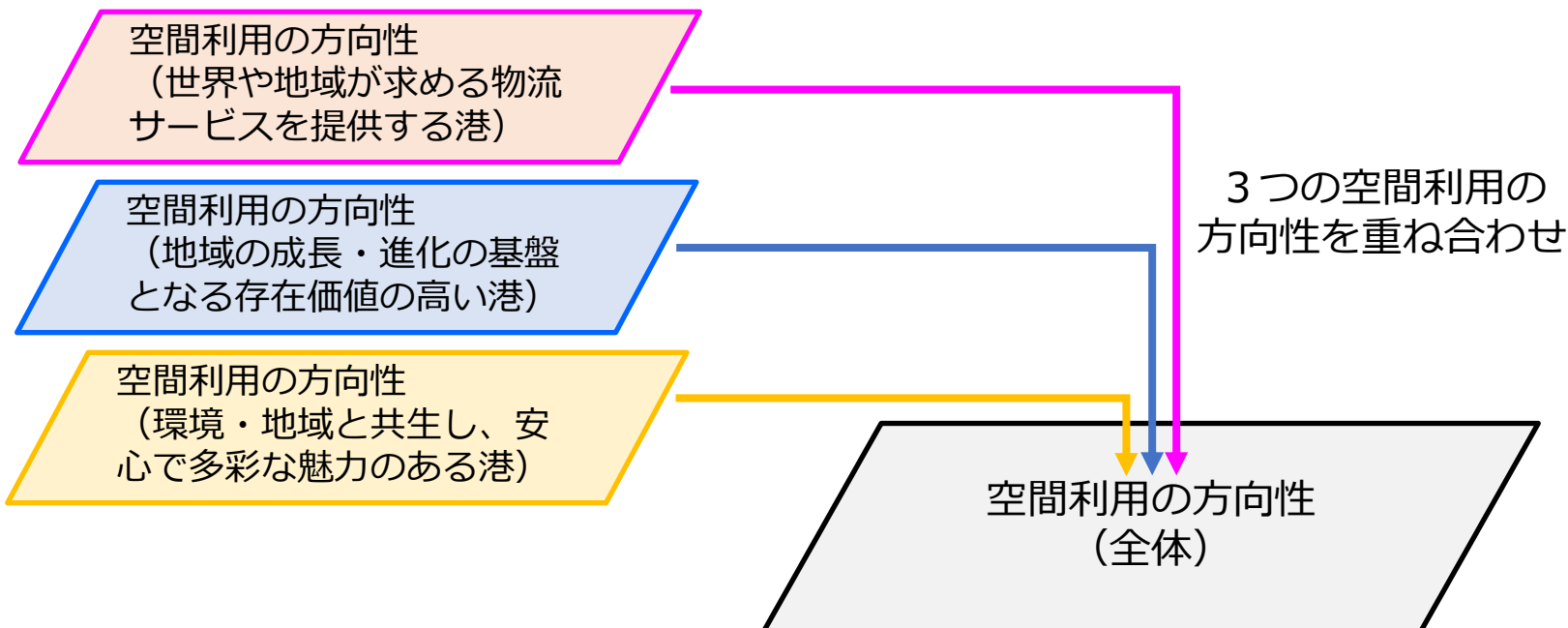
それぞれの将来像に対し、施策の効果を最大化することを重視し、周辺エリアとの連携を踏まえながら、施策を展開するエリアを定める

空間利用の方向性（全体）

将来像ごとの「空間利用の方向性」をひとつの地図上に重ね合わせて全体を俯瞰し、施策の相互関係を整理する

空間利用の方向性（進め方イメージ）

特性により名古屋港を4つに分け、それぞれの地区ごとに、施策を展開する上での課題や施策の相互関係を考慮して、施策の進め方のイメージを整理する



将来像 世界や地域が求める物流サービスを提供する港

●多機能なロジスティクスハブを形成する

- ・土地利用転換の可能性を有し、高速道路ネットワークに直結する西部地区において、港湾周辺の物流施設と連携し、中継輸送や共同輸配送などに対応した大型倉庫等の物流機能を拡充する
- ・高速道路アクセスに優れ、広大な荷捌き地を有する金城ふ頭や稲永ふ頭などにおいて、自動車専用船、フェリー、RORO船を活用した複合一貫輸送の機能を集約し拠点形成する

●世界標準に適合した高性能なコンテナ物流拠点を形成する

- ・コンテナ物流の拠点となっている飛島ふ頭と鍋田ふ頭において、既存のコンテナターミナルを高規格化・高度化し、コンテナターミナルを形成する
- ・将来的な展開用地であるポートアイランドでは、西部地区と連携を図る形で、コンテナ物流拠点を形成する

全域を対象

●シームレスな物流環境を構築する

- ・港内で円滑な道路・航路体系を確保するとともに、自動運転トラックや自動運航船などの新技術にも対応できるシームレスな物流環境を構築する

●魅力と働きがいのある環境を作り出す

- ・遠隔操作RTGの導入などDXの推進により、労働環境の快適性、安全性、生産性を高める

●港湾機能を強靱化する

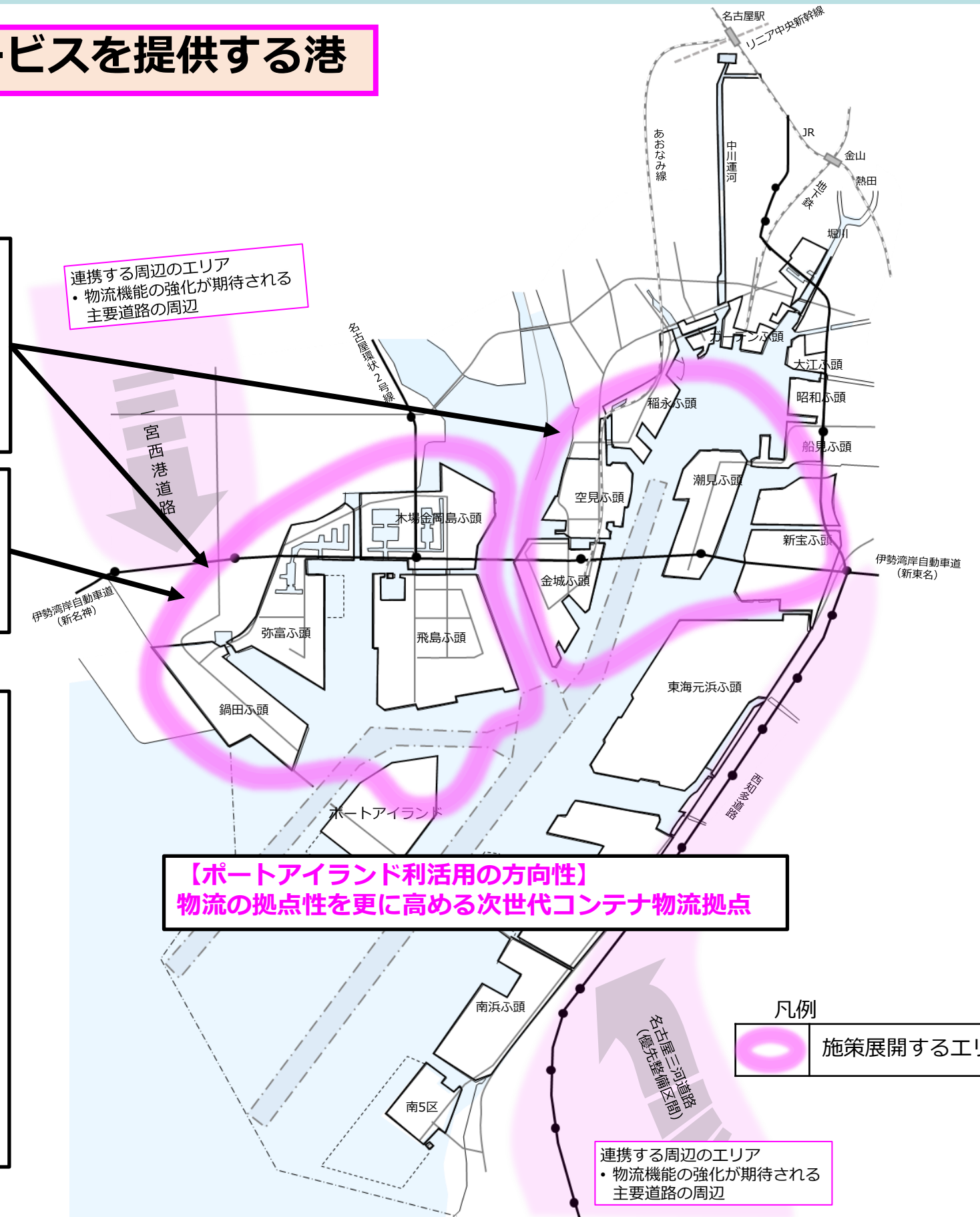
- ・耐震強化岸壁や緊急輸送道路など、災害時における一連の貨物輸送ルートを構築する

●港湾施設を効率的・戦略的に維持管理する

- ・岸壁など、必要性やニーズの変化に応じて、施設の廃止も含めたインフラの集約・再編等により、インフラストックの適正化を図る

●港湾物流の脱炭素化を推進する

- ・コンテナターミナルなど港湾物流を行うエリアにおいて、荷役機械の燃料電池化や電動化、船舶や車両への次世代燃料の供給などを推進する



将来像 地域の成長・進化の基盤となる存在価値の高い港

●次世代産業を振興する

- ・航空機産業や循環産業等が立地する内港及び西部地区において、航空機産業の更なる発展とともに、脱炭素化や循環型社会への移行に資する新たな産業などを振興する

●次世代エネルギー等の大規模拠点形成する

- ・LNGなど既存のエネルギー基地が立地する北浜ふ頭や南浜ふ頭、南5区において、既存設備等を活用することで、次世代エネルギー等を取り扱う大規模拠点を形成する
- ・パイプライン等による南部地区との接続により、ポートアイランドへ次世代エネルギー等を取り扱う大規模拠点を形成する
- ・次世代エネルギーの取扱いに合わせ、既存産業のGXや関連する産業の立地を促進する

【全域を対象】

●協働防護を推進する

- ・高潮防波堤や防潮壁のほか、用地のかさ上げなどにより、防護機能を強化する

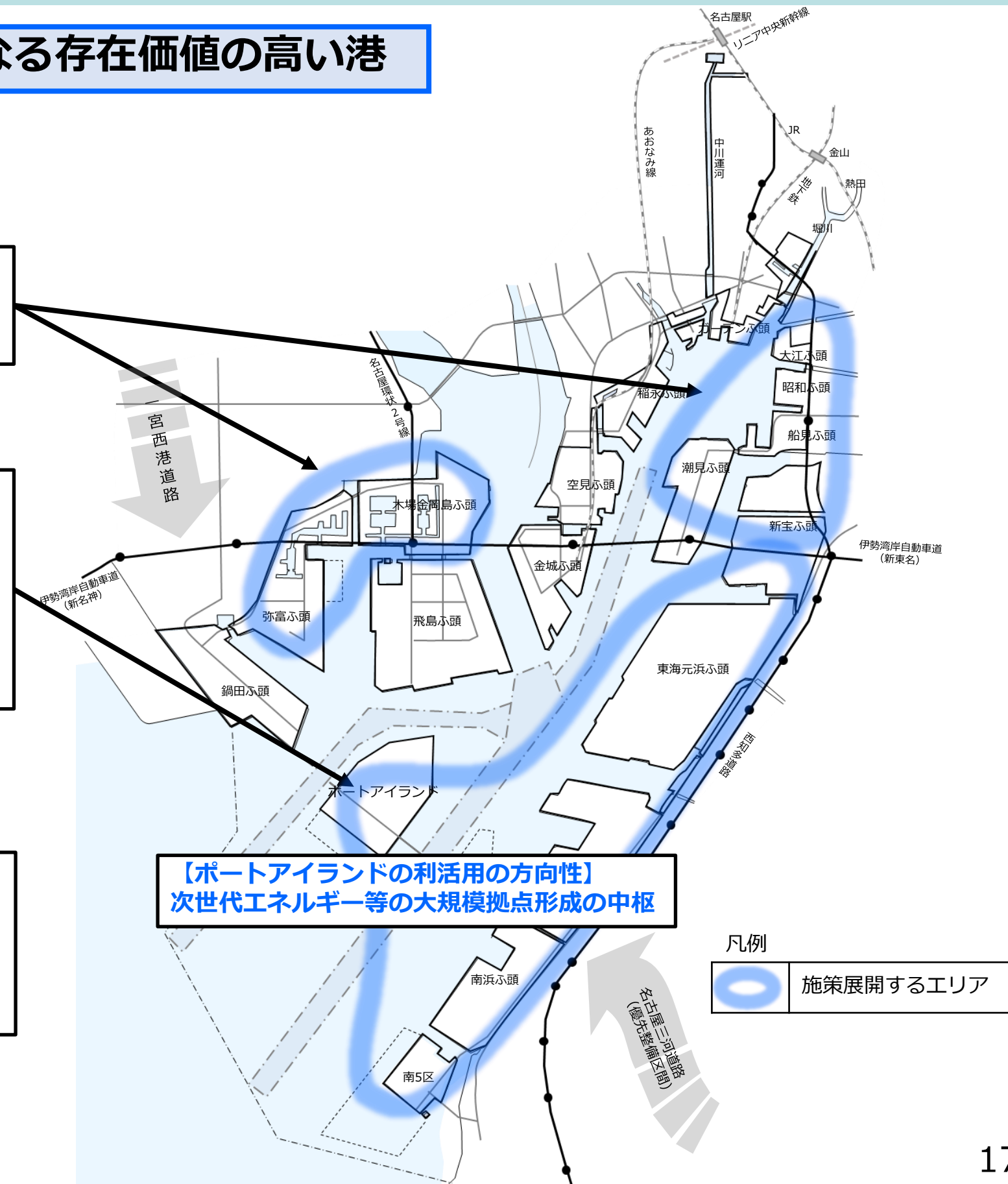
●次世代産業を振興する

- ・産業の成長に必要な実証実験などについて、港特有のフィールドを柔軟に活用して実施する

【ポートアイランドの利活用の方向性】 次世代エネルギー等の大規模拠点形成の中核

凡例

	施策展開するエリア
---	-----------



将来像 環境・地域と共生し、安心で多彩な魅力のある港

●“みなと”と“まち”の繋がりを意識した魅力ある港湾空間を形成する

- ・再開発に取り組んでいるガーデンふ頭において、名古屋港水族館の機能向上とともに再開発を進め、地域や国内外の人々が訪れる、新たな港の玄関口となる交流拠点形成する
- ・にぎわいの創出に取り組んでいる中川運河において、港とまちを繋ぐ新たな水辺空間を形成する
- ・アクセス性の高い金城ふ頭において、ものづくりを支える物流機能と調和を図りつつ、広域から人々が訪れる国際交流拠点を形成する
- ・ガーデンふ頭及び金城ふ頭では、交流拠点と一体となったクルーズ船の受入環境を整備する
- ・港内や都市側の交流拠点を、中川運河や堀川などで運航している水上交通を活用し、魅力やにぎわいを広げていく
- ・中川運河の水質改善など環境面での魅力向上に取り組む

●良好な港湾環境を創出・保全する

- ・南5区において、風力等の再生可能エネルギーの活用を推進する

【全域を対象】

●名古屋港固有の魅力を磨き上げる

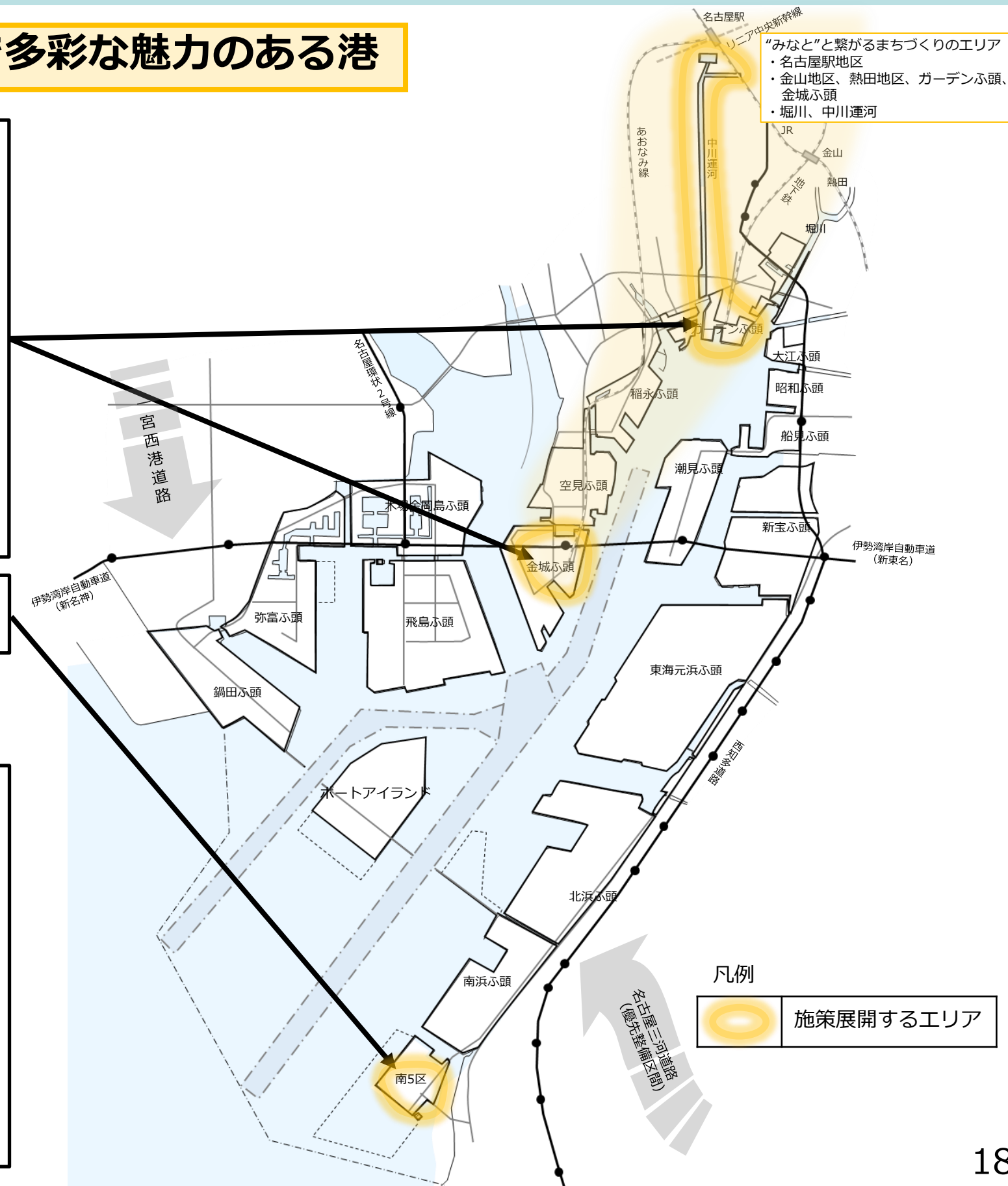
- ・コンテナターミナル等の物流施設や大規模な産業施設、歴史資源やランドマークなどの景観資源を、地域の観光施策とも連携し、様々な視点から多角的に提供する

●良好な港湾環境を創出・保全する

- ・人々が憩い・集う緑地や緩衝緑地などを港内にバランスよく配置するとともに、グリーンカーボンの活用などにむけて、緑地の高質化を図る
- ・ブルーカーボン生態系の活用となる藤前干潟の保全、浅場の造成、生物共生型港湾構造物の整備などを推進する

●地域と連携した防災対策を推進する

- ・地域の関係者が連携して、避難場所や早期復旧・復興に必要なオープンスペース等を確保するなど、防災対策を推進する



空間利用の方向性

- 将来像ごとの空間利用の方向性を重ね合わせて名古屋港全体を俯瞰し、そこから見えてくる相互関係を考慮して、空間利用の方向性を地区ごとに整理した
- その空間利用の方向性に基づいた施策の進め方については、それぞれの地区でイメージを整理する

“みなと”と繋がるまちづくりのエリア

- ・名古屋駅地区
- ・金山地区、熱田地区、ガーデンふ頭、金城ふ頭
- ・堀川、中川運河

“みなと”と“まち”の繋がりを意識した魅力ある港湾空間を形成する

内港・金城地区

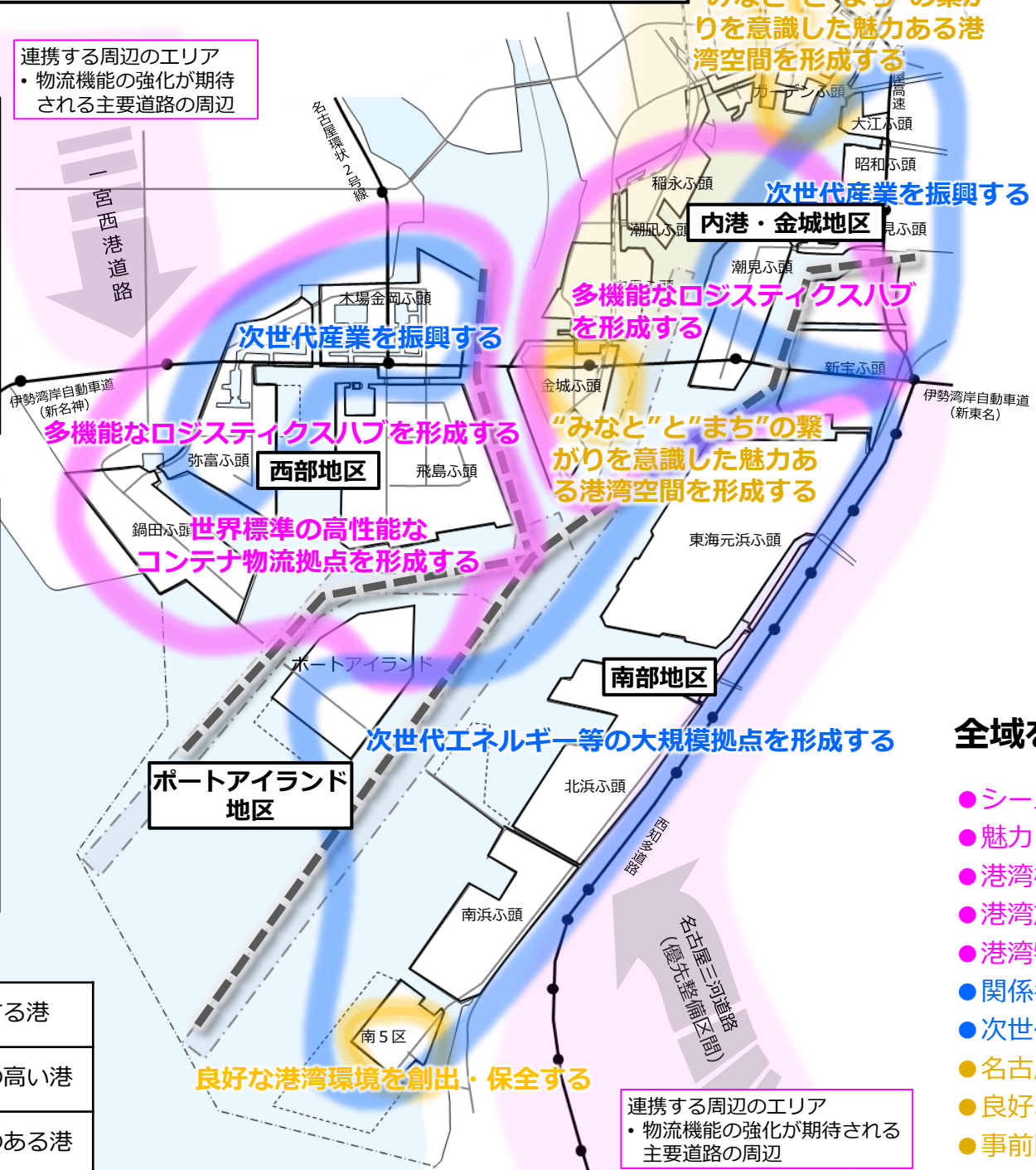
- ・港湾施設の更新需要に対応しつつ、既存機能の集約・再編を進め、多機能なロジスティクスハブを形成する
- ・都市機能とのつながりも重要となることから、物流機能とすみ分けを意識しながら、魅力ある港湾空間を形成する
- ・脱炭素化や循環型社会を見据えつつ、次世代の柱となる新たな産業を振興する

西部地区

- ・世界とつながるコンテナターミナルの拠点であり、広域道路アクセスを活かしながら世界標準の高性能な物流拠点や多機能なロジスティクスハブを形成する
- ・港湾機能の必要性やニーズの変化に対応し、物流機能との連携を活用しながら次世代を担う産業を振興する

ポートアイランド地区

- ・港に残る大規模な開発用地であり、その面積を活かして様々な拠点として活用する
- ・南部地区と一体となって、次世代エネルギー等の取扱いの中核を担う拠点を形成するほか、西部地区と連携して物流機能を強化し、世界標準の高性能なコンテナ物流拠点を形成する
- ・現時点では想定できない新たな需要にも対応する



南部地区

- ・エネルギーとの関連の深いエリアであり、既存施設等を活用しつつ、ポートアイランドと一体となった次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する
- ・再生可能エネルギーを活用し、良好な港湾環境を創出・保全する

全域を対象とする施策の方向性

- シームレスな物流環境を構築する
- 魅力と働きがいのある環境を作り出す
- 港湾機能を強靱化する
- 港湾施設を効率的・戦略的に維持管理する
- 港湾物流の脱炭素化を推進する
- 関係者が連携し災害リスクに備える
- 次世代産業を振興する
- 名古屋港固有の魅力を磨き上げる
- 良好な港湾環境を創出・保全する
- 事前防災対策や情報発信を推進する

凡 例

	世界や地域が求める物流サービスを提供する港
	地域の成長・進化の基盤となる存在価値の高い港
	環境・地域と共生し、安心で多彩な魅力のある港

施策の進め方のイメージ（内港・金城地区）

- 既存機能を集約・再編しながら、金城ふ頭や稲永ふ頭に多機能なロジスティクスハブを形成する
- まちづくりの方向性や進捗と連携し、物流と交流のエリアや動線のすみ分けを図りながら、ガーデンふ頭、中川運河、金城ふ頭で魅力ある交流拠点を形成する

【空間利用の課題】



ストック効果の最大化が必要

- すでに既存施設が配置されている中で、ストックを有効活用しつつ、その効果を最大化していくことが必要

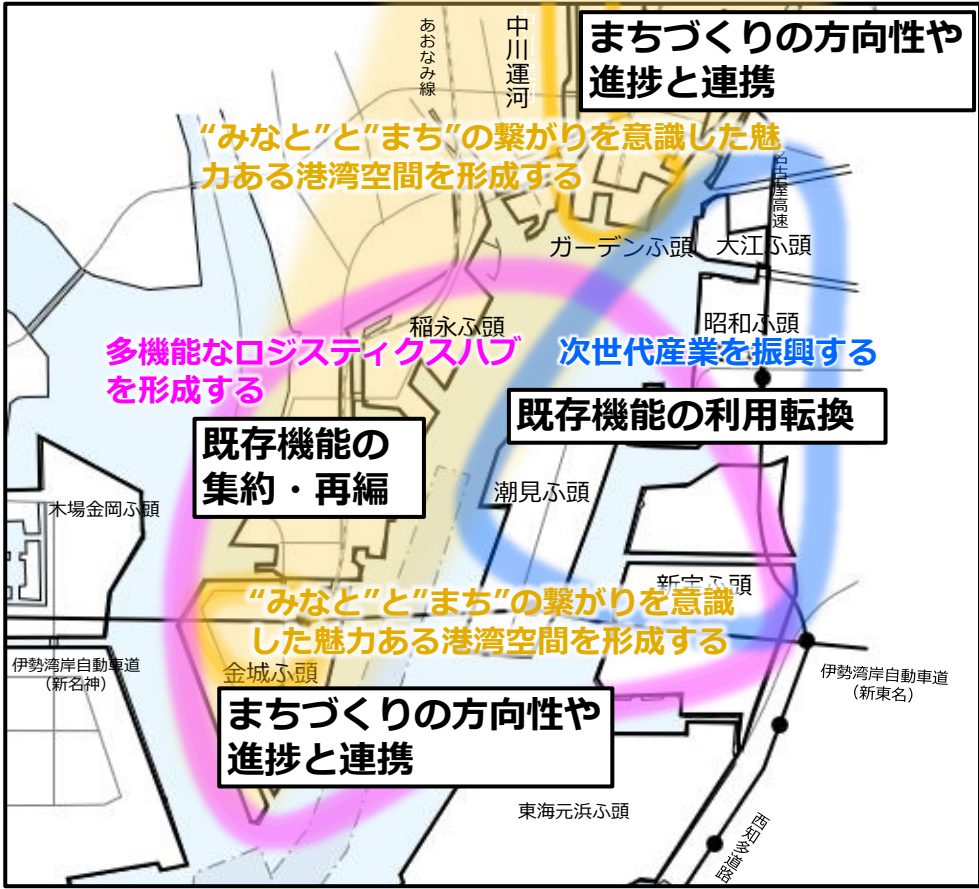
さらなる賑わい創出と物流との共存が必要

- ガーデンふ頭、金城ふ頭、中川運河での取り組みを更に推進し、更なるにぎわいを創出するとともに、周辺の物流機能との共存が必要

開発用地の確保が必要

- 既存機能の利用転換等により、新たな展開用地を確保することが必要

【将来展開】



多機能なロジスティクスハブを形成

- 既存機能を集約・再編しながら、完成自動車取扱機能などを拠点化していく

魅力ある交流拠点を形成

- まちづくりの方向性や進捗と連携しながら、ガーデンふ頭、中川運河、金城ふ頭で魅力ある交流拠点を形成していく
- 物流機能の集約・拠点化に合わせて、交流拠点のエリアや動線をすみ分けしていく

次世代産業の振興

- 既存機能を利用転換しながら、次世代の柱となる産業を振興する

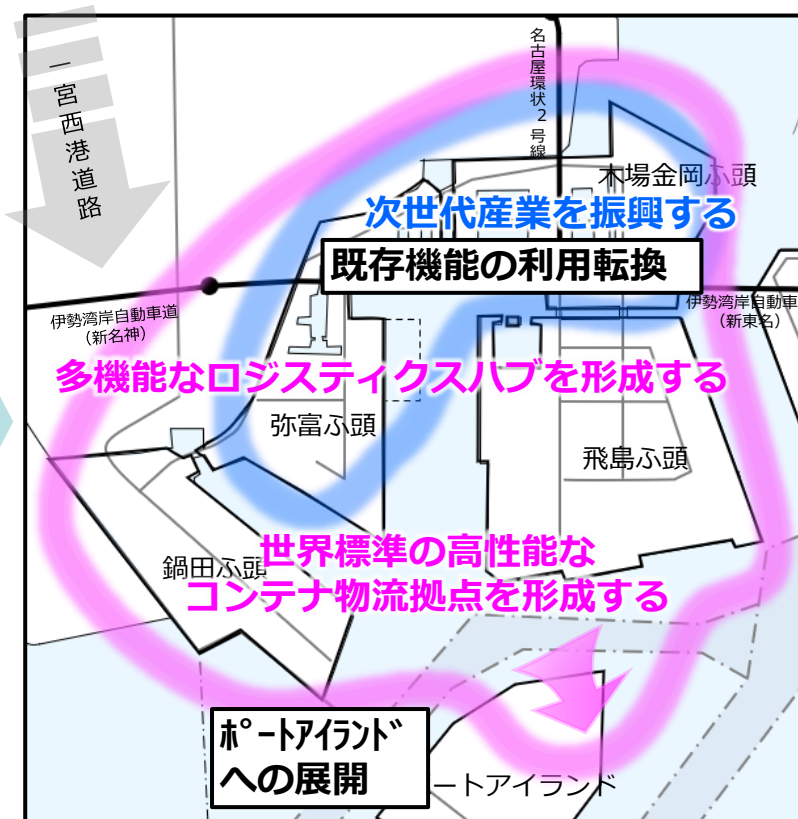
施策の進め方のイメージ（西部地区）

- 既存機能を利用転換しながら、コンテナ物流機能の高度化・拡充や次世代産業の振興を進める
- 将来的には、ポートアイランドにおけるコンテナ物流機能との連携を図り、物流機能の更なる高度化・拡充を進める

【空間利用の課題】



【将来展開】



コンテナ物流機能の更新・強化が必要

- 既存機能を維持しながら、近代的なターミナル群へ機能を集約、更新、強化していくことが必要

開発用地の確保が必要

- 水面の埋立や既存機能の利用転換により、新たな開発用地を確保することが必要

世界標準の高性能な物流拠点の形成

- 機能の集約・更新を図りながら、既存ターミナルの高規格化・高度化を進めていく

高度なロジスティクスハブの形成

- 既存機能を利用転換しながら、高度なロジスティクスハブ機能を形成する

高度なロジスティクスハブの形成

- コンテナ物流機能のポートアイランドへの展開にあわせ、西部地区において、それと連携したコンテナ物流機能の更なる高度化・拡充を進めていく

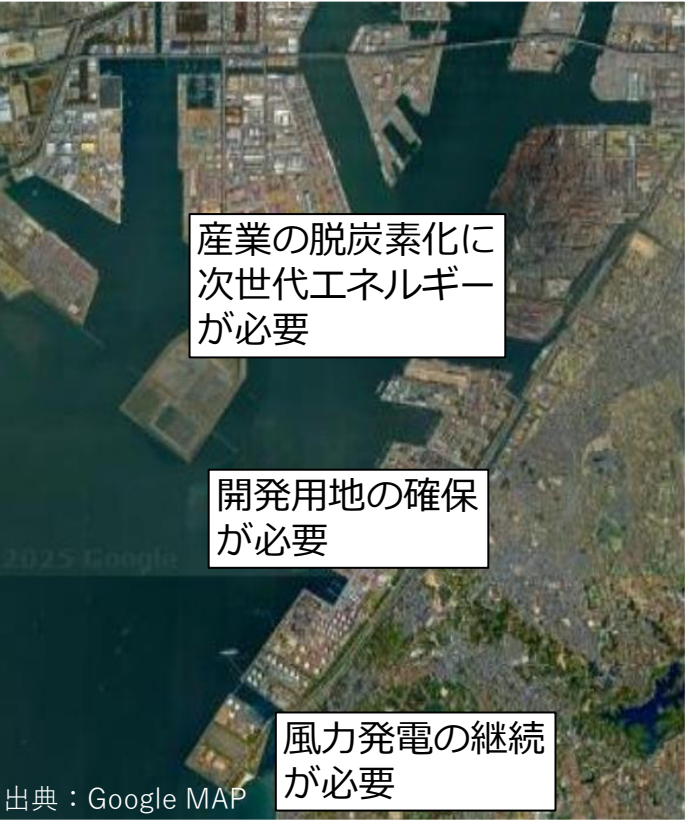
次世代産業の振興

- 既存機能を利用転換しながら、次世代の柱となる産業を振興する

施策の進め方のイメージ（南部地区）

- 既存施設を活用しながら次世代エネルギーの取扱いを開始し、ポートアイランドでの拠点形成を契機に、一体的な次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する。
- 民間事業者の意見を聞きながら、南5区の風力発電等の再生可能エネルギーの活用を推進する

【空間利用の課題】



展開用地の確保が必要

- 既存産業が集積している中で、次世代エネルギーを取り扱うための展開用地の確保が必要

産業の脱炭素化に次世代エネルギーが必要

- 鉄鋼等の既存産業の脱炭素化には、次世代エネルギーが必要

風力発電の継続が必要

- 2005年に運転開始した風力発電の継続が必要

【将来展開】



次世代エネルギーの取扱い

- 既存施設を活用しながら、次世代エネルギーの取り扱いを開始する
- 次世代エネルギーを活用した新たな産業の開発を進める

良好な港湾環境の創出・保全

- 民間事業者の意見を聞きながら、風力等の再生可能エネルギーの活用を推進する



次世代エネルギー等の大規模拠点の形成

- ポートアイランドにおける次世代エネルギー等の拠点形成を契機に、それと一体となった次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する
- 次世代エネルギー等を活用した新たな産業の開発を更に進める

施策の進め方のイメージ（ポートアイランド地区）

- 脱炭素の需要の高まりに合わせ、開発に係る時間を短縮する工夫をしながら、南部地区と一体的な次世代エネルギーの大規模拠点形成する
- 将来のコンテナ貨物需要の高まりに合わせ、西部地区と連携した最先端のコンテナ物流拠点形成する
- 効果的・経済的なアクセスの確保により、ポートアイランドの利便性の向上を図る

【将来展開】

【空間利用の課題】



仮置き土砂の撤去が必要

- 土地の竣工には、現在、計画高を最大10m超えて仮置きされている土砂の撤去が必要

アクセス道路の確保が必要

- アクセス道路は、船舶の航行を確保する高いクリアランスを有する橋梁又はトンネル構造となり、高額な費用が必要



次世代エネルギー等の大規模拠点の形成

- 脱炭素の需要の高まりにあわせ、仮置き土砂の処分促進や部分的な土地の竣工など開発に係る時間を短縮する工夫をしながら、まずは、南部地区と一体となった次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する

新たな需要への対応

- 新技術の開発拠点など、現時点では想定できない新たな需要には、ポートアイランドの開発状況を踏まえながら、適宜、対応を検討する



世界標準のコンテナ物流拠点の形成

- 将来的なコンテナ貨物の需要の高まりにあわせ、西部地区と連携した世界標準の高性能なコンテナ物流拠点を形成する

6. 実現に向けて

- 長期構想の実現に向けて、将来像の実現につながる多角的な視点や、施策の具体化に向けた横断的な視点から、施策と並行して進める取組を示すものとする

【DXの推進】

生産性の向上や働き方の変革など、あらゆる施策を効率的かつ効果的に進めるため、DXを推進する

そのために

- DXの推進に向けて、常に**最先端の技術等を情報収集**するとともに、活用方法を探っていく
- DXに対応できる**高度な人材を育成**していく

【GXの推進】

脱炭素化を付加価値とし、港湾の競争力を強化するため、GXを推進する

そのために

- GXの推進に向けて、**産学官と連携し、省エネ、再エネ、エネルギー転換に取り組んでいく**

【具体計画の策定】

事業を着実に進めるため、誰が何をいつまでに行うかを明確にし、具体計画を策定する

そのために

- 具体計画の策定に向けて、**名古屋港の現状や課題を把握し、具体的な対応策を関係者で調整**をしていく

【国内外の様々な主体との連携】

様々な主体が持つ特徴、強みを活かし、施策を効率的かつ効果的に進めるため、世界の主要港湾や伊勢湾の港湾・空港のほか、広く産学官を対象に、施策に応じた適切なパートナーと連携する

そのために

- 本港が進む**方向性を積極的に発信するとともに、関連分野の情報収集**を行う
- **共通の目的を持つ主体と意見交換**していく

【身近で重要なイメージづくり】

名古屋港は身近で重要なインフラであり、広く理解してもらうため、イメージづくりを推進する

そのために

- イメージの形成に向け、**一般の人々も含めて分かりやすい形で積極的に情報発信**していく

【迅速かつ柔軟な対応】

将来の見通しが立ちづらい現状において、急激な環境変化に対応していくため、迅速かつ柔軟な判断を重視する

そのために

- 役割分担や責任の所在を明確にし、**迅速に意思決定できる体制を検討**していく
- 環境変化には、適宜、具体計画で対応していくが、**著しい変化が生じた場合は、長期構想の見直し**を行う

【港湾経営の視点】

名古屋港が持続的に発展するため、経営の視点をもって戦略的に施策を進める

そのために

- **限られた資金、空間を有効活用**し、経済的・効果的に施策を進めていく
- 名古屋港から周辺地域への幅広い**経済効果を強く打ち出し、名古屋港への再投資に繋げていく**

7. 骨子（案）のまとめ

- これまでの検討内容を踏まえて、長期構想の骨子を以下の通りまとめた
- 今後、骨子に基づき長期構想の中間案を作成していく

【表題】

名古屋港長期構想
～物流で日本をひっぱる価値創造港湾～

【項目】	【記載内容】	【検討方針】
基本理念	名古屋港が重視する 基本的な価値観や考え方	本港を取り巻く環境変化を踏まえ、日本の発展につながる高い視点から定める
名古屋港の将来像	名古屋港が 将来ありたい姿	本港から価値を得る人々の視点に着目し、価値が高い名古屋港の姿を将来像として定める
施策の方向性	名古屋港の 将来像の実現に向けた具体的な施策を導くための方針	本港のポテンシャルを踏まえ、将来像の実現に向けてバックカスティングで定める
空間利用の方向性	施策を展開するエリアや施策の進め方のイメージ	施策の方向性を本港地図上に展開し、施策を展開するうえでの課題や施策の相互関係を考慮して、地区ごとに施策の進め方のイメージを定める
実現に向けて	長期構想の実現に向け、 施策と並行して進める取組	施策の方向性や空間利用の方向性の内容を踏まえて、それらの具体化に向けた取組を多角的な視点から定める